

紹介

千葉県立中央図書館編

資料の広場

最近、地方で発行される雑誌のなかで、しかも、図書館の出版物中に興味をひくものが多いが、ここに千葉県立中央図書館で発行している『資料の広場』（B5判）を紹介しよう。図書館発行の雑誌といえば、図書館の運営を中心とするものが多いが、本誌は、千葉県の文化をおし進めていこうとする積極的な姿勢を打出しているところに編集の特色がうかがえる。

多くの公共図書館でも、各種の刊行物のなかで資料の紹介をしているが、『資料の広場』では、刊行のたびごとに、本県に関係深い問題や県民が大方関心をもっているテーマを選び、解説などを加えながら、関連する図書館所蔵の資料を紹介した雑誌である。

そこで、既刊1号から3号までの概略を紹介すると、

創刊号は、昭和46年3月に刊行。テーマは、「千葉県の開発」をとりあげている。巻頭に「千葉県開発の歩み」（千葉県開発庁長）の解説文を掲載、ついで、開発に関連する資料について、近世から現代（昭和45

県）までの主な蔵書を中心に紹介し、昭和25年からは、京葉工業地帯に焦点をあてている。巻末には、解題つきの「戦後の千葉県地方史誌」の一覧が添えてある。

第2号のテーマは「伝記」をとりあげている。特に「伊藤左千夫の手紙」については、寺田憲宛の東京での『アララギ』発刊の消息を伝えた未発表の手紙2通に、解説を加えて掲載している。いずれも郷土資料室に保管されているものである。そのほか研究方法と資料について解説した「伝記資料研究のために」を付す。

第3号のテーマは「郷土雑誌」を選び、冒頭の「成田図書館の雑誌資料あれこれ」（武士田文哉：成田図書館主任）では、「明治期の主な雑誌を紹介しているが、これほど充実した雑誌を所蔵しておく公共図書館は他にあまり例がないであろう。また、「明治期一郷土雑誌創刊号の紹介」・「千葉県雑誌年表稿・千葉県における同人雑誌」は、郷土雑誌が体系的に整理されているので、図書館の利用者にとっては、大変便利である。

なお、今後2～3回程度の刊行を予定しており、4号のテーマについては、「移りゆく三里塚」をとりあげる予定とある。

（馬場）